




浜中町

町勢要覧





目次

浜中町の産業.....	3 ~ 4 ページ
浜中町の観光.....	5 ~ 6 ページ
霧多布湿原.....	7 ~ 8 ページ
浜中町のイベント.....	9 ~ 10 ページ
浜中町の特産品.....	11 ~ 12 ページ
浜中町の保健・医療・福祉.....	13 ~ 14 ページ
浜中町の教育.....	15 ~ 16 ページ
浜中町的生活環境・防災対策.....	17 ~ 18 ページ
地域振興・地方創生・行財政.....	19 ~ 20 ページ

概要

地理的条件と自然条件

浜中町は、北海道東部である釧路地方の最東端に位置し、423.63km²の町域面積を有します。東は根室市、西は厚岸町、北は別海町に接し、南東は太平洋に臨み、その海岸線は67kmに及んでおり、海に突き出した岬や大小の島々、風浪と噛み合う奇岩や絶壁が独特の景観を作り出しています。町の南西部は厚岸霧多布昆布森国定公園の一角をなし、広域な霧多布湿原が広がります。内陸部は中央を東西に走る鉄道、南部は森林、牧草地帯、北部一帯は農村地帯で平坦な丘陵性台地を形成しています。

夏季は海流の影響で海霧が発生しやすい一方、冬季は雪が少なく、晴天の日が多くなります。年間を通して気温は低めで、日本の中でも特に冷涼な気候が特徴です。

歴史

- ・1701年 厚岸場所を割いてキイタツ場所が開かれる
- ・1870年 漁場持榊富右衛門の移民入地
- ・1876年 榊町・浜中村・散布村のほか後静村・琵琶瀬村を置く
- ・1880年 浜中戸長役場開庁
- ・1884年 浜中戸長役場廃止、厚岸郡役所出張所を置く
- ・1885年 浜中村より霧多布村分村
- ・1887年 榊町外4村戸長役場、霧多布戸長役場を置く
- ・1888年 両戸長役場を併合し、霧多布村外1町4村戸長役場を置く
- ・1906年 2級町村制施行により浜中村誕生
- ・1919年 1級町村制施行
- ・1952年 3月4日 十勝沖地震津波災害発生（死者3名）
- ・1960年 5月24日 チリ地震津波災害発生（死者11名）
- ・1963年 8月1日 町制施行
- ・1967年 浜中町役場旧庁舎完成
- ・1978年 開町100周年
- ・1987年 皇太子殿下・同妃殿下ご来町
- ・1998年 開町120年・町制施行35周年記念式典挙行
- ・1993年 釧路沖地震発生
- ・1993年 霧多布湿原ラムサール条約登録湿地認定
- ・1999年 浜中町ふれあい交流保養センター「霧多布温泉ゆうゆ（多目的避難施設）」完成
- ・2001年 霧多布湿原北海道遺産に認定
- ・2020年 浜中町役場現庁舎完成
- ・2021年 霧多布湿原の国定公園化（厚岸霧多布昆布森国定公園）
- ・2021年 避難道路開通

人口と経済

浜中町の令和2年国勢調査における人口は、5,507人となっています。昭和35年の11,915人をピークに、減少の一途を辿り、今後もその傾向が続くと予測されます。併せて、少子高齢化も進んでおり、年少人口と生産年齢人口が減少しています。

浜中町は、酪農業と漁業を基幹とする一次産業の町であり、町民の半数以上が酪農業と漁業に携わっているのが特徴です。

冷涼な気候は酪農に適しており、内陸に広がる丘陵性台地は「酪農王国はまなか」の名にふさわしい農村地帯が形成されています。乳用牛は2万頭以上が飼育されており、年間10万トン以上の生乳生産を誇り、人気の高い「ハーゲンダッツアイスクリーム」の原料乳となるなど、高品質の生乳が生産されています。

漁業は、昆布漁を太宗とする沿岸漁業が中心で、天然昆布は全国でも有数の生産量を誇っています。近年は増養殖漁業にも力を注いでおり、特に浜中町で生産される養殖ウニは、本州方面でも非常に高い評価を得ています。



アクセス



飛行機

中標津空港⇄札幌 55分
中標津空港⇄東京 110分

釧路空港⇄札幌 50分
釧路空港⇄東京 100分

自動車

浜中町⇄札幌 382km
浜中町⇄釧路 78km
浜中町⇄釧路空港 100km
浜中町⇄根室 53km
浜中町⇄中標津 68km
浜中町⇄中標津空港 70km

JR

茶内駅⇄札幌駅 320分
茶内駅⇄釧路駅 70分
茶内駅⇄根室駅 90分

バス

茶内駅⇄役場前 24分
茶内駅⇄霧多布温泉ゆうゆ 30分
霧多布温泉ゆうゆ⇄釧路駅 149分

町章・町民憲章



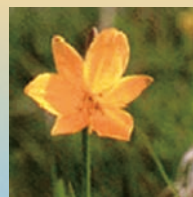
【町章】

八・マの二文字を組み合わせ、八を円形にして浜中・琵琶瀬両湾を形どり、あわせて農漁の二大産業に支えられる町の現勢を表徴するとともに町民の和を、マは鋭く天を指して、町勢の限りなき発展を表現している。

【町民憲章】

- 1、豊かな資源を生かし、生産を高め、活気のあるまちをつくりましょう。
 - 1、たがいに助け合い、あたたかいまちをつくりましょう。
 - 1、スポーツに親しみ、健康で楽しいまちをつくりましょう。
 - 1、子供の夢を育て、幸せなまちをつくりましょう。
 - 1、文化を高め、きまりを守り、平和なまちをつくりましょう。
- 昭和53年10月1日制定

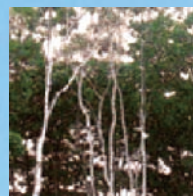
町の花、木、鳥



【町の花】

エゾカンゾウ

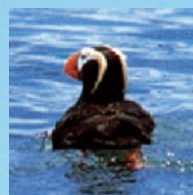
毎年7月中旬、オレンジ色のエゾカンゾウが霧多布湿原を染め上げます。その光景は、まるで橙の絨毯を見ているようです。



【町の木】

白樺

北日本一帯の山林に自生していた白樺は、次第に各地の開発によって減少し樹林を形成しているのは北海道の山間部一円となっています。そんな稀少価値の高い白樺は、樹液が多く主たる建築資材としては使用されていませんが、合板用や楽器の木材部品として利用されています。



【町の鳥】

エトピリカ

エトピリカという名前は、アイヌ語で「美しい嘴」という意味です。

エトピリカは、北太平洋北部とそれに隣接する海域だけに生息する貴重な鳥で、日本では、霧多布以外では見ることはできません。しかも日本のエトピリカは絶滅の危機に瀕しています。

浜中町の産業

地域を支える地場産業の振興

浜中町は、農業と漁業を基幹とする一次産業が盛んな町です。

農業は、ハーゲンダッツアイスクリームの原料にもなっている生乳を生産する酪農業が主体で美しい自然環境との共生を図りながら豊かな酪農郷を形成しています。

漁業は、昆布漁を中心とする沿岸漁業とサケ・マス漁などの沖合漁業が中心でしたが、近年ではウニやアサリ、カキなどの増養殖漁業が昆布漁と共に中心となっています。



商工業・観光業

浜中町の商工業は、消費動向の広域化・多様化やインターネットの普及などに伴い、地元購買力低下の拡大が懸念されています。そのような状況を打開すべく、経営改善普及事業に対する支援や特産品開発、販路拡大などの活性化を図っています。

観光においては、風光明媚な自然景観や四季折々の味覚など、浜中町ならではの観光素材を活用し、商工会・産業団体・観光関連事業者が連携し、地域特性を活かした観光振興を図っています。特に浜中町は、ルパン三世の原作者であるモンキー・パンチ氏のふるさとでもあり、ルパン三世を活用した観光振興にも取り組んでいます。



農 業

浜中町の農業は、生乳を生産する酪農業を主体としており、昭和44年度から平成3年度までの「国営総合農地開発事業」、平成12年度から平成23年度までの「国営環境保全型かんがい排水事業」など、自然環境に配慮した足腰の強い酪農業を目指し、食糧の生産・供給基地としての役割と自然との共生を図りながら豊かな酪農郷を目指しています。また、浜中町で生産される生乳は、ハーゲンダッツアイスクリームの原料としても使われるなど、高品質乳として広く出荷されています。近年は、酪農経営の大規模化が進む一方、後継者不足による離農問題が深刻となっており、(有)浜中町就農者研修牧場による研修事業や新規就農者誘致事業を中心とした、新規就農者確保に向けた取組みを実施しています。さらに、平成29年度からは担い手確保と浜中町への定住を促進するため、新規学卒やUターンによる後継者を対象とした農業後継者就業交付金制度（月額5万円を最大3年間支給）を開始し、後継者対策に取り組んでいます。



漁 業

浜中町の漁業は近年、サケ・マス漁などの沖合漁業については漁場の変化等の影響により漁業不振に悩まされています。しかし、長年育てる漁業に注力してきた結果、ウニやカキ、アサリなどの増養殖漁業が昆布漁と共に中心となりました。特に養殖ウニは、以前から一級品の評価を得ていましたが、浜中町ウニ種苗生産センターが令和3年に供用開始され、一部種苗の生産から水揚げまでの全工程を町内で行うことで安定した生産が可能となりました。

また、昆布漁については水揚げ金額が圧倒的であり、全国でも有数の天然昆布生産量を誇っています。さらには、町内で加工されるだけでなく主に関西方面にも出荷され、その品質については高い評価を得ています。

しかし、酪農と同様に後継者対策が大きな問題となっており、漁業についても平成29年度から漁業後継者就業交付金制度（月額5万円を最大3年間支給）を開始し、後継者対策に取り組んでいます。



浜中町の観光

霧多布岬

「霧多布岬（きりたっぶみさき）」は、正式には「湯沸岬（とうふつみさき）」といます。トツカリ（あざらし）を見かけることからトツカリ岬とも呼ばれます。標高50メートル程のテーブル型の霧多布半島の東側に位置し、太平洋の荒波に突き出ており周辺には展望台・キャンプ場もあり、いこいの場としても最適です。展望台から3km先には、アザラシのいる帆掛岩、浜中湾越しに奔幌戸、貫人の絶壁と海岸線等を臨むことができます。



アゼチの岬

霧多布半島の東の端は「霧多布岬」、西の端には「アゼチの岬」があります。アゼチの岬は琵琶瀬湾に突き出た岬で、小島・ゴメ島・嶮暮島、遥かに琵琶瀬湾、浜中湾の海岸線を見渡すことができ、真夏の落日は素晴らしい情景となります。アゼチの岬の先から臨める小島には、町の鳥「エトピリカ」が飛来します。また、かつてはゴメ島にも多くの「エトピリカ」が営巣し、このような海鳥の聖地となる小さな島、岩が多く、多くの海鳥が生息しています。



涙岬・立岩

涙岬・立岩を訪れると、古老の語り草である網元の娘と若い衆の恋物語を偲ぶことができます。この場所は、嵐の海にのまれた若者に恋する乙女の泣く姿が岩になったといわれており、嵐の夜などは乙女のすすり泣きが聞こえてくるといわれています。そのため、別名「乙女の涙」とも呼ばれており、数10mもの断崖に刻まれた乙女の横顔は、なぜか旅情を誘います。



霧多布湿原

霧多布湿原は、3,168haの広さを持つ国内有数の大きな湿原で、国定公園であるとともに、湿原の中央部803haは「霧多布泥炭形成植物群落」として国の天然記念物に指定されています。また、1993年6月に釧路で開かれた「ラムサール条約（特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）締結国会議」で登録湿地に認定されました。



琵琶瀬展望台

琵琶瀬展望台は、霧多布湿原の南に位置する高台にあり、360度の視界が広がります。前方を見ると、広大な霧多布湿原の中を琵琶瀬川が蛇行する大パノラマが展開、振り返ると太平洋の荒々しい景観が待ち受けており、海上に「窓岩」が臨めます。この窓岩は、浜中町の奇岩のひとつで、平成5年と6年の大きな地震の前までは、2つの窓がメガネのような形をしていましたが地震により片側が崩れてしまいました。夜には霧多布市街を中心とする海岸線に続く夜景も楽しむことができるなど、琵琶瀬展望台の景観は、国際級との観光評価もあります。



酪農展望台

国道44号線沿いにある酪農展望台は、浜中町の美しく広がる緑の牧場風景が見渡すことができます。なだらかなスロープが流れるように続き、牛の群れがのんびりと草を食む姿や、夏の採草作業でトラクターやトラックが忙しく動いている様子など、「酪農王国はまなか」にふさわしい大地を一望することができます。



霧多布温泉ゆうゆ

霧多布温泉ゆうゆ（浜中町ふれあい交流・保養センター）は、霧多布市街を望む標高42mの湯沸山の一角に交流・保養・健康づくりの場として設置された道東沿岸で唯一の温泉施設です。四季折々に豊かな表情を見せ、出迎えてくれる海と湿原を背に、ゆったりと心ゆくまで温泉につかりながら安らぎとゆとりの時を過ごすことができます。

概要 営業時間：10時～22時（入浴受付は21時まで） 休館日：毎月第1月曜日（祝日の場合は翌営業日）
利用料金：大人 500円 小学生 250円 乳幼児無料 お問い合わせ：霧多布温泉ゆうゆ 0153-62-3726



霧多布湿原

概要

霧多布湿原は、3,168haの面積を誇る国内有数の湿原です。

湿原中心部の泥炭で形成された高層湿原部分803haは、1922年（大正11年）10月12日に国の天然記念物「霧多布泥炭形成植物群落」に指定されています。（保全を目的として指定当時より周辺国有地86haが追加されています。）1993年6月1日に、厚岸湖と別寒辺牛湿原とともに、国より厚岸・別寒辺牛・霧多布鳥獣保護区（集

団飛来地）に指定されました。（総面積11,271ha、うち特別保護地区7,781ha）また1993年6月10日にラムサール条約登録湿地にも登録され（範囲は2,504ha）、2001年には北海道遺産に選定されています。

また、令和3年3月30日に、厚岸霧多布昆布森国定公園に指定されました。

町をはじめ、地域や認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストにより、湿原保全活動が活発に行われています。



霧多布湿原センター

霧多布湿原センターは、環境教育の視点からエコツアーや自然体験学習に取り組むビジターセンターです。

霧多布湿原の歴史、湿原の重要性、生息する動植物などの情報を知ることができ、湿原散策やバードウォッチングなどのアウトドア体験メニューも充実しています。館内は、各種展示、図書室、喫茶スペースもあり、ゆっくりとくつろぐことができます。



花の湿原

霧多布湿原が「花の湿原」と呼ばれるのは、釧路湿原等に比べ花の種類が多く、花の密度が高いためといわれています。原生花園が広がり、春から秋にかけて多種多様な花が咲きます。特に初夏を告げる白いワタスゲ、夏の訪れと共に咲く黄色いエゾカンゾウなどが湿原一面を彩ります。

夏には数組のタンチョウが繁殖を行っており、鳥類をはじめとするさまざまな野生動物が観察できます。

天然記念物に指定されている湿原のコア部分（約800ha）に立ち入る際には文化庁長官の許可が必要ですが、コア部外の湿原内には木道や展望台が設置されています。



霧多布湿原花ごよみ



浜中町のイベント

浜中桜まつり (浜中桜まつり実行委員会主催)

開催時期：5月中～下旬

毎年、5月の桜の満開となる季節に浜中桜公園にて地元や観光客の方に楽しんでいただいているお花見イベント。

全国でも遅い時期での桜の開花でもあることから、たくさんの方に来場いただいています。



浜中うまいもん市 (浜中町観光協会主催)

開催時期：7月上旬

霧多布湿原の花の魅力を体感していただくとともに、イベント会場のテントブースでは、浜中町自慢の味覚（花咲がに・トキシラズ・カキなど）を味わうことができる屋台村も楽しめます。湿原の花の景観と浜中町の食の二つを一度に堪能できるイベントです。



きりたっぶ岬まつり (浜中町観光協会主催)

開催時期：9月上～中旬

「きりたっぶ岬まつり」は、秋あじ(秋鮭)、さんまなどの漁が盛んな9月に行われる、海産物をメインとしたイベントです。つかみ取りや食体験のイベントを多数用意しています。



**ルパン三世フェスティバルin浜中町
(モンキー・パンチ&ルパン三世)
(de地域活性化プロジェクト主催)**

開催時期：8月～9月

漫画「ルパン三世」の作者である、モンキー・パンチ氏が本町出身であることから、浜中町ではルパン三世を活用した観光振興が行われています。

2012年から開催されている「ルパン三世フェスティバルin浜中町」は、イベント限定の特別展示やトークショー、新作オリジナルグッズの販売などのルパンコンテンツと、浜中町ならではのご当地グルメが大集合します。北海道内はもちろん、全国、海外からもファンが集まるイベントに、ぜひあなたも参加してみませんか？

詳細は「ルパン三世宝島プラン」ホームページをご覧ください。



**浜中秋ど真ん中祭
(浜中町産業祭実行委員会主催)**

開催時期：10月上旬

町内の農協、漁協、商工会の各青年部が連携して企画し、秋の味覚を堪能できるだけではなく、牧草ロール転がしや牛乳早飲み、牡蠣のつかみ取りなどを組み合わせた障害物競走など、浜中の産業素材を活かした催しが行われます。



**サマーフェスタ
(夏まつり実行委員会主催)**

開催時期：8月中旬

金魚すくいや型抜きなどの昔ながらの露店や、抽選会、バンド演奏、消防署による放水、救助体験など、各種催しが行われます。

ドラム缶太鼓が響く盆踊りでは、子どもから大人まで一緒になって夏をたっぷり楽しむイベントです。



**霧多布神社例大祭
(霧多布神社氏子会主催)**

開催時期：9月下旬

各地域自慢のみこしや山車が街を練り歩き、祭り囃子が響きわたります。山車の競演、ぶつかり合いはものすごい迫力で、沿道からは歓声が沸き起こります。

浜中町で最も歴史があり、老若男女こぞって参加するまつりです。



浜中町の特産品

牛乳

浜中町の牛乳は、高品質として全国に知られ、有名なアイスクリームブランドである「ハーゲンダッツ」の原料などとして広く親しまれています。町内で購入できる「小松牛乳」は、牧場が海のすぐそばにあります。海霧で運ばれた海のミネラルをたっぷり含んだ牧草で育った牛から毎朝絞られる牛乳を、よりおいしく感じられる低温殺菌で瓶詰されています。



チーズ

浜中町の高品質乳をふんだんに使い、時間をかけ、丹精込めて作られた上質な手作りチーズ。

町内のチーズ工房では、熟成タイプのゴーダチーズから、カマンベールチーズ、フレッシュタイプのモッツァレラチーズ、また、季節限定商品なども揃っています。

ビールやワインのおつまみ、ピザや料理にいかがでしょうか。



昆布（昆布加工品）

浜中町は、かつて天然昆布の生産量が日本一を誇っていた時期もあり、今でも良質な昆布がたくさん採れる、昆布漁の長い歴史を持つ町です。棹前昆布や長昆布、猫足昆布、おに昆布など、採れる種類も豊富で、おぼろ昆布や昆布醤油、昆布菓子など、さまざまな昆布加工製品が生まれてきました。恵み豊かな海で育った上質の昆布だからこそできる味わい。浜中町自慢の味覚です。



ウニ

浜中町の家は、良質な昆布が多く育つことから昆布を餌とするウニにとっても最適な環境です。浜中町では天然ウニの採取のほか、ウニの養殖も手掛けています。令和3年に浜中町ウニ種苗センターが建設され、種苗の飼育も開始しました。養殖カゴの中で餌となる昆布を与え、稚ウニから出荷サイズまで大事に育成されます。新鮮な折詰のウニはもちろんのこと、むきたてを無添加でパックした「塩水ウニ」や、瓶詰でギフトにも最適な「寿粒うに」も人気です。



北海シマエビ

北海シマエビは、きれいな海の浅瀬にしか生息しないデリケートなエビです。霧多布湿原から山のミネラルが流れる栄養豊富な海域で獲れる浜中町の北海シマエビは、別格の味わいです。漁師さんが朝4時に出漁し、活きているうちに浜ゆでした新鮮な北海シマエビは、濃厚な甘みとぷりぷり食感でとても贅沢な味わいです。



毛がに

北海道内で広く水揚げされる毛がにの中でも、ここ浜中町で獲れるブランド毛がにには最高級品です。普通の毛がにの2倍以上のサイズを誇る「極」[霧幻]は、1日いっぱい漁に出ても1匹獲れるかどうかの幻の毛がにです。

繊細で上品な味わいで、カニみそもたっぷりなのが毛がにの特徴。ちょっと贅沢してみませんか？

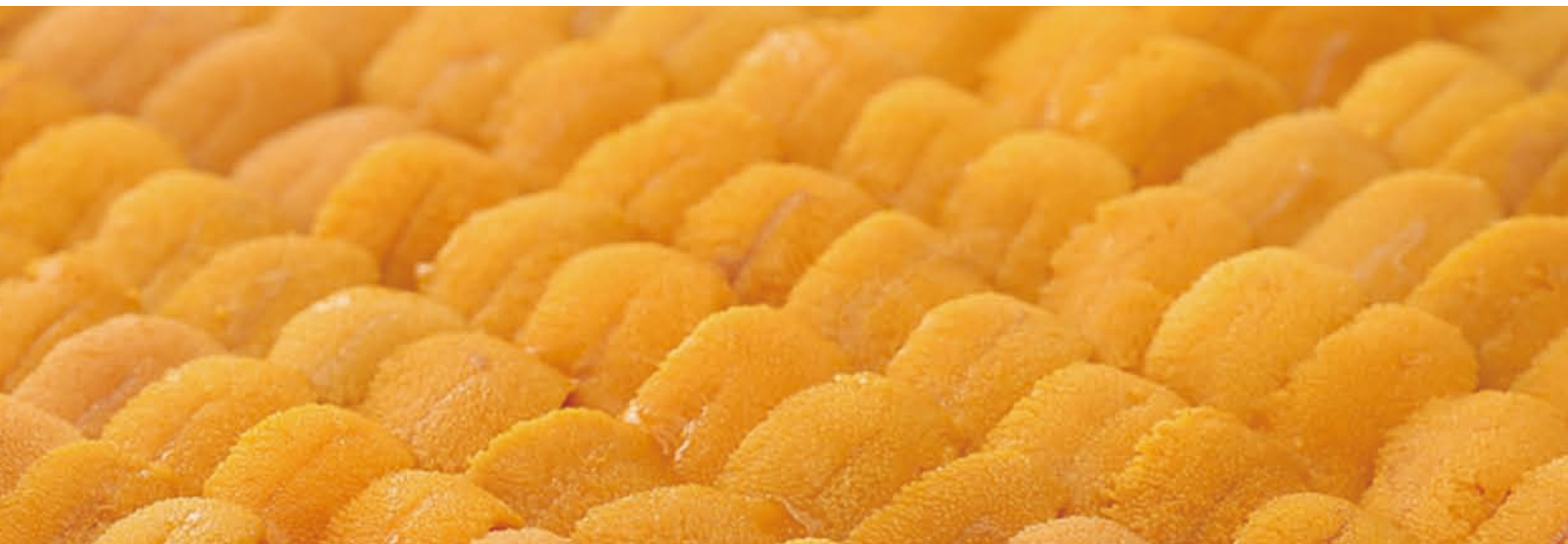


花咲がに

北海道内でも道東でしか水揚げされない花咲がにには、他のかにと比べて濃厚なコクと甘みが特徴的です。

毛がにの繊細さとは対照的に、濃厚で深い味わいがダイナミックに口の中いっぱい広がります。

鉄砲汁(かに汁)もとても人気が高い、食べ応えのある花咲がに。ガッツリ派にもしっかり満足いただけます。



ほっき貝

刺身やバター焼き、炊き込みご飯など、とてもおいしく人気の高いほっき貝ですが、浜中町のほっき貝は一味違います。浜中町の砂浜は、砂の粒子が細かく、車でも走ってしまうほど！そんな砂浜で育ったほっき貝は、どこよりも身が締まっていて深みとコクのある濃厚な味わいです。ぜひお刺身で味わってみてください。



他にも・・・

サケやトキシラズ、サンマ、アサリ、カキ、カレイ、イカ、タコ、ツブ貝などの海産物の他に、ホエイ豚やエゾシカ肉など、多くの特産品があります。

詳しくは、北海道浜中町ふるさと納税特設サイトをご覧ください。お問合わせください。



産業団体等連絡先

浜中漁業協同組合

☎0153-62-2121

散布漁業協同組合

☎0153-67-2111

浜中町農業協同組合

☎0153-65-2121

浜中町商工会

☎0153-62-2144



浜中町の保健・医療・福祉

健やかで安心して暮らせる福祉のまちづくり

子育て支援・児童福祉

本町は、少子化対策として妊娠・出産・子育て期を通じた相談支援の充実を図っています。町内に霧多布保育所、茶内保育所の2ヵ所の常設保育所と3ヵ所のへき地保育所を設置しています。令和元年度には、新しく茶内保育所が供用開始され、保育環境の充実に努めています。

また、高校生世代までの医療費の無償化や、給食費の無償化を実施しているほか、インフルエンザ予防接種費用の一部助成や、保育料の負担軽減、出産される方への各種支援などにより、子育てしやすい環境の構築に力を注いでいます。



高齢福祉

高齢者の方々が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、外出や自立生活に対する支援をはじめ、高齢者を対象とした健康教室の開催、インフルエンザや肺炎球菌の予防接種料の助成など、高齢者にやさしいまちを目指しています。



障がい福祉

障がいのある方の日常生活の支援や社会参加の促進を図るため、地域生活支援事業を実施しています。平成30年度からは旧榊町小学校を改修し、地域活動支援センター・子ども発達支援センターを設置し、障がいのある方の社会参加を促進しています。



地域福祉

各種福祉サービスに関する情報提供や相談体制の整備に努めています。

浜中町には、地域の介護拠点施設として社会福祉法人が運営する特別養護老人ホームハイツ野いちごが設置されており、安心して快適にご利用いただけるよう、施設の維持補修費や運営費を助成しています。



地域医療

町内には内科診療所が1ヵ所と歯科診療所2ヵ所あり、町民の一次医療に対応しているほか、隣町である厚岸町との協定により休日・夜間の救急医療対策を行っています。また、北海道大学病院と医療法人東北海道病院から医師派遣事業により医師派遣を行っています。ほかにも、町民が24時間電話でいつでも医療相談ができる「浜中町健康・医療相談ダイヤル24」を実施しています。

保健・健康づくり

がん検診や特定健康診査の実施、特定保健指導を通じた町民の健康づくりに向けた取組みを進めています。

町民の半数近くが加入する国民健康保険は、保険税の適正な賦課と収納確保を図りつつ、健全な事業運営に努めています。



浜中町の教育

浜中町の教育が目指すもの

浜中町教育の基本理念は「ふるさと浜中に生き 豊かなまちを拓き創造する人づくり」です。この基本理念のもと、

- ・自然に親しみ、豊かで活気ある郷土をつくる人
- ・他を思いやり、ともに生きる温かな社会をつくる人
- ・体力を増進し、健康でうまい生活をつくる人
- ・進んで学び、明るい家庭や社会をつくる人
- ・地域の文化を高め、安全で平和な町をつくる人

を教育目標として、「生きる力」を育む学校教育の充実と町民生活に潤いと活力を生み出す社会教育の充実を目指しています。



「生きる力」を育む学校教育の充実

浜中町には、小学校4校、中学校4校、高等学校1校があります。近年の少子化に伴い平成15年以降、10校の小学校と1校の中学校が閉校となりました。次代を担う大切な存在である子どもたちが、「ふるさと浜中」を愛し、また、学力はもとより豊かな心を持ち健康に育つことができるよう、学校施設の維持・整備や遠距離通学者のためのスクールバスの運行など、教育環境の充実に努めています。

浜中町の霧多布高等学校は、町立高校であるメリットを最大限に活かし、高校3ヵ年を見通した地域研究や郷土の自然を学ぶ「浜中学」を中心に、郷土の人材や素材を活用した教育活動の推進と、国内産業視察研修生徒派遣事業・国内環境視察研修生徒派遣事業・海外交流派遣事業を展開し、浜中を知り、浜中を調べ、浜中を広め、自分の力を生かせるような人材の育成に取り組んでおり、町民から地元高校として愛されています。

また、食べることも教育の一環と捉え、地域の食材や食文化を学んでいます。平成30年度から運用を開始した給食センターでの給食提供により、自然の恩恵や生産に携わる人への感謝と「ふるさと浜中」の素晴らしさを認識できるよう、地場産食材をふんだんに取り入れた学校給食を、小中学校のみならず霧多布高校でも提供しています。

町民生活に潤いと活力を生み出す社会教育の充実

町民が個性や能力を活かし、生涯を通して健康で、心身ともに充実した心豊かな社会生活を送るためには、多くの学習機会が必要です。浜中町では、幼児から高齢者までが、各時期に応じ主体的に学び、町民生活に潤いと活力を生み出す社会教育に取り組んでいます。

図書室が併設されている総合文化センターは、各種文化サークルの活動やイベントに活用され、浜中町の学習活動の中核施設として広く町民に利用されています。

町民が健康で明るく豊かな生活を営むために、スポーツ活動の役割が非常に大きいことから、子どもから高齢者までが気軽にスポーツを親しめる環境の充実に努めています。町内には、総合体育館や町民プール、総合グラウンド、パークゴルフ場などの体育施設が整備されています。

各施設を利用し、季節に応じて町民体育祭の冠のもと、冬のスケート大会をはじめとする各種スポーツ大会が開催され、多くの町民がスポーツに親しんでいます。

また、少年団や各種競技団体の全道・全国大会への出場に費用を助成するなど、スポーツ活動の成果に伴う支援も行っています。



浜中町の生活環境 ・ 防災対策

自然と共生し景観と調和した快適なまちづくり

町道の維持・整備

町道は、町民の日常生活や生産活動に欠かすことができないインフラです。浜中町では、計画的に補修工事や維持作業を実施しているほか、町道に架かる橋梁の維持についても、長寿命化計画に基づいた整備を実施しています。



環境保全・環境衛生

浜中町の環境保全は、「浜中町環境基本計画」に基づき計画的に推進されています。町内には、風光明媚な景色が広がり貴重な動植物が生息しており、この自然景観を守る活動をしています。

また、環境への負荷を軽減し循環型社会の実現のため、空き缶やペットボトルなどの資源物リサイクル活動に町内会・自治会と連携しながら積極的に取り組むなど、住み良い生活環境の構築に取り組んでいます。



住宅・住環境整備

安心・安全で快適な住環境の整備を図るため、「浜中町公営住宅等長寿命化計画」に基づき、計画的な公営住宅の建替えと維持に努めています。

民間住宅への支援は、安心すまいる促進事業により、新築や増築、リフォームに対し支援しています。



上・下水道の整備

上水道は、町民へ常に安定した水道水の供給を図っています。また、施設の耐震化工事を計画的に行い非常事態に対応できるよう整備しています。

下水道は、設備の長寿命化を図りながら適正な維持管理に努めています。令和5年1月現在は水洗化率84.7%となっていますが、今後も水洗化率の向上に努めるとともに、下水道処理区域外の地域については、合併処理浄化槽の普及に努めています。



防災対策

浜中町は、これまで数度に渡り大きな津波の被害を受けてきました。過去の被害を教訓に海岸線には防潮堤が整備され、防潮堤に附設された水門や陸閘は、津波防災ステーションから遠隔操作により開閉することができます。

また、生命を守るためには、一早く避難することが必要であることか

ら、毎年5月24日(昭和35年にチリ地震津波が押し寄せた日)には、津波防災避難訓練を実施しているほか、防災行政無線による迅速な情報提供に努めています。

防災対策の拠点となる役場庁舎が老朽化していることや津波の浸水域に位置していることが長年の課題となっていました。令和2年に防災

センター機能と、町民の避難施設を兼ね備えた新役場庁舎が完成し、令和3年に庁舎までつながる避難道路が開通しました。

浜中町の地震・津波・防災の歴史

- 1952年 十勝沖地震津波災害発生
- 1960年 チリ地震津波災害発生
- 1966年 防潮堤完成
- 1973年 根室半島沖地震災害発生
- 1993年 釧路沖地震災害発生
- 1993年 防潮堤改良工事着工
- 1994年 東方沖地震津波災害発生
- 2001年 津波防災ステーション完成
- 2003年 十勝沖地震災害発生
- 2004年 根室半島沖地震災害発生
- 2011年 東日本大震災発生
- 2016年 防潮堤改良工事竣工
- 2020年 役場庁舎完成
- 2021年 避難道路開通



地域振興

地域とともに歩むまちづくり

地域振興

浜中町は、行政と町民との協働によるまちづくりを進めています。

行政情報等については、防災行政無線や浜中町ホームページ、広報誌を活用し、タイムリーな行政情報提供に努めています。

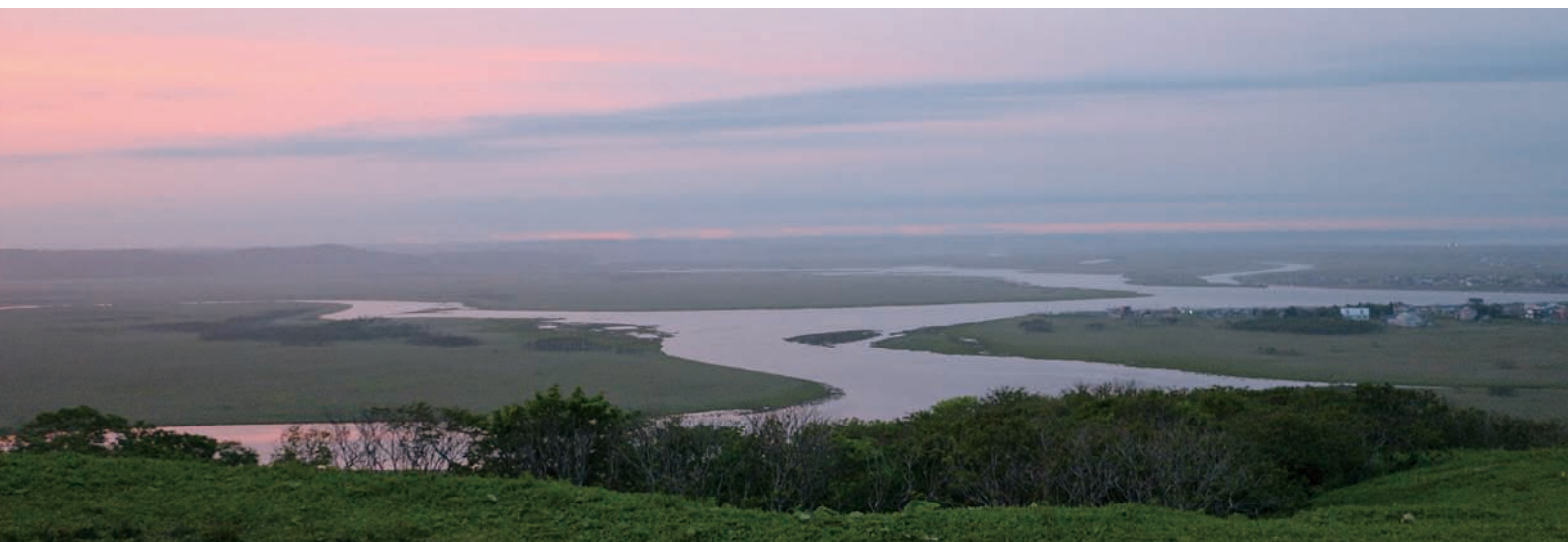
また、地域の活性化やコミュニティ活動の振興を図るため、自治会等の活動に対する支援も積極的に実施しています。

行財政

少子高齢化や情報化の進展する中、安全で良質な公共サービスを提供できるよう、職員の適正配置と人材育成に取り組んでいます。浜中町の財政は、財源の多くを地方交付税などに依存し、その動向によって大きな影響を受けかねない状況ですが、限られた財源のもと、行政に対する町民ニーズの多様化や高度化に職員が一丸となって対応しています。

地方創生・行財政





地方創生への取組み

国は、「各地域がそれぞれの特徴を活かして自律的で持続可能な社会を創ること」を目標に、平成27年度に「第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し地方創生に着手しました。その後、令和元年度には「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」をスタートさせました。

それに伴い浜中町でも、「第1期浜中町創生総合戦略」の期間終了後、「第6期浜中町まちづくり総合計画」との整合性を図りながら「第2期浜中町創生総合戦略」を策定しています。

また、近年ますます進む少子高齢化や人口減少は浜中町においても大きな問題となっており、将来人口の推計を示す「浜中町人口ビジョン」も同時に改訂しています。

この人口ビジョンは、「第2期浜中町創生総合戦略」の基本目標に沿った事業を展開することで、将来的な浜中町の人口目標を推計及び施策を検討するための基礎資料となるものです。

「第2期浜中町創生総合戦略」は、3つの基本目標を

掲げ、①「魅力あふれる地場産業の振興と安定した雇用を創出する」②「若い世代が希望を持って結婚・出産・子育てができる環境を構築する」③「誰もが安心・安全を実感して住み続けられるまちづくり」となっており関連する施策は下記のとおりです。

- 「第2期浜中町創生総合戦略」に関連した政策
 - 1 新規就農者誘致事業
 - 2 産業後継者対策事業（新たに後継者になる方に月額5万円を最大36ヶ月支給）
 - 3 漁業技術習得支援事業
 - 4 一般不妊治療費助成事業
 - 5 高校生までの学校給食の実施
 - 6 放課後児童クラブの受入体制等の充実
 - 7 一時避難施設への防災備蓄品常時配備
 - 8 安心すまいる促進事業（住宅の新・増築及びリフォームに対し金券により助成）
 - 9 地域医療体制の確立
- ※上記施策は、地方創生に関する一部の施策です。

